

国立病院機構熊本医療センター

2012 No.175



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

謹賀新年



新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 池井 聰

明けましておめでとうございます。

旧年中は多方面にわたりご指導、ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。職員一同、心よりお礼を申し上げます。

昨年は東日本大震災、それに続く福島原発事故等、激動の1年でしたが、今年は良い年になることを希望している所です。

当院では昨年は6月にヘリポート竣工、7月に心臓血管連続撮影装置の更新、8月に保育園新築工事が竣工、12月にプレハブの保育所・更衣棟撤去、駐車場整備工事が終わり、2002年に現在の看護学校敷地の史跡調査で始まった病院現地建て替え工事はすべて終了しました。これからは腰を落ち着けて地道に日常の診療業務を滞りなく行い、医療連携を通じて少しでも先生方のお役にたてるように努める所存です。

本年は4月に診療保険点数の改訂があります。2年前の改訂では当院が行っているような急性期医療に有利な改訂がなされましたが、今回はその反動が予想され、病院運営は厳しくなるものと思われます。しかしこれらのことで動揺すること無く、職員全員で当院の基本理念である良質で安全な医療を提供出来るように努力致します。

本年は先生方にとりまして実り多い一年と成りますことをご祈念申し上げますとともに、本年もよろしくご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2012年元旦



「生命を支える大切な病院」

医療法人社団 京杏会
 蔵元外科胃腸科医院
 理事長・院長
 蔵元 一崇



熊本市京町で有床診療所として開業しております蔵元といいます。平素より国立病院機構熊本医療センターの先生方、スタッフの皆様には大変お世話になっております。この度はこのような貴重な紙面に掲載する機会を与您頂き誠にありがとうございます。

元々父が開業しており、平成22年3月に急逝したため継承しました。父の最期を看取って頂いたのは貴院救急部の先生方およびスタッフの皆様でした。

心肺停止で搬送された父を大変忙しい時に最期まで一生懸命心肺蘇生して頂き、遺族として大変感謝しております。本当にありがとうございました。

私が開業医となってからも、大変ご多忙の中、いつも救急患者の受け入れを快諾して頂き大変感謝しております。貴院には足を向けては寝られません。予定紹介の時もいつも懇切丁寧な返事と、共診に協力して下さい、私個人としても診療に際し大変心強く思っております。また、私が開業前に御指導頂いた先生方や同期の先生方が多く勤務なされており、誠に勝手ながら親しみを感じております。特に同期の先生方は大変優秀であるとともに、先生方の診療にかける情熱や努力を目の当たりにしますと大変敬服します。自分の努力はまだまだ足りないと感じますが、今後は先生方を見習い努力精進していきたいと思っております。

私が言うのもおこがましいのですが、国立病院機構熊本医療センターは生命を支える大切な病院であります。ただ、あまりにも御多忙すぎて先生方やスタッフの皆様が体調を壊されないか心配です。とは言いつつ、常に御迷惑ばかりかけておりますが、今後は少しでもお役にたてるよう、できる限りのことはしていきたいと思っております。最後になりましたが、今後とも国立病院機構熊本医療センターの益々の発展を祈念しますとともに、今後ともご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

平成23年 第2回開放型病院運営協議会が開催されました

平成23年度第2回目の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成23年12月6日（火曜）午後7時より当センター会議室で開催されました。協議会には委員として熊本市医師会より医師会長の福島敬祐先生、副会長の加来 裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生がご出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、野村統括診療部長、片渕地域医療連携室長が出席いたしました。院長より、医師会長はじめ熊本市医師会の先生方に日頃の御礼を述べ、続いて福島委員長よりご挨拶をいただきました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第31回開放型病院連絡会（平成23年9月6日）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告を行いました。第31回連絡会には多数の参加があり、ご参加の先生方には改めて御礼申し上げます。次の協議事項では、平成23年度第2回（通算32回）開放型病院連絡会の開催について協議され、平成24年2



開放型病院運営協議会の様子

月25日（土曜）午後7時より当センター2階 地域医療研修センターホールで開催されることが決定しました。総会では症例報告、病院からのお知らせ、総合討論などを行い、特別講演は、厚生労働省大臣官房 技術総括審議官 矢島鉄也先生にお願いすることになりました。次の開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。（副院長 河野 文夫）

病棟紹介〈10〉

7 東病棟



7 東病棟は、重症個室3床、有料個室15床を含む病床数50床の病棟です。

主な診療科は眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、救急部になります。

病院の最上階になるため見晴らしもよく、熊本城を望める病室もあります。

入院してくる患者様は乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方がいらっしゃいます。ほとんどの患者様が手術を受けられます。眼科で白内障の手術を受ける患者様に安全な療養環境を提供し安心して手術が受けられるように援助しています。耳鼻咽喉科では、手術後の生活を視野に入れ患者様と共に考える看護を心がけています。皮膚科、形成外科では、ボディイメージの変化に対しての精神的な援助と共に皮膚状態の改善、感染防止に努めています。歯科口腔外科では、埋伏歯の抜歯をはじめ上顎、下顎の嚢胞腫や骨膜炎の手術を受ける患者様の症状を緩和し少しでも安楽な生活が送れるような看護を心がけています。

スタッフ一同、明るい笑顔で身体的・精神的に質の高い看護を目指しています。
(7 東病棟師長 本松美和子)





部長
江崎 公明
麻酔一般、救急医療
ペインクリニック
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本救急医学会救急科専門医
熊本大学医学部臨床教授
医学博士



医長・ICU室長
瀧 賢一郎
麻酔一般・集中治療
日本麻酔科学会指導医・専門医



医長
上妻 精二
麻酔一般・ペインクリニック
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本医師会認定産業医

診療内容・特色

人（技術）や物品（器械）を供給する中央部門（SPD部門）が充実することは、病院機能として大切なことです。麻酔科が管理する手術室、消耗材料・滅菌室、ME室、集中治療部（ICU）はそういった部門です。

〔手術室〕手術内容は、総合病院としてあらゆる臓器への手術が可能になっています。なかでも手術侵襲が少なく、回復の早い内視鏡下の手術（外科、耳鼻科、泌尿器科、産婦人科）が多くなっているのが特徴です。また骨髄移植の技術を利用した閉塞性動脈硬化症患者への血管新生療法や形成外科と各科との連携のもとで皮膚による食道再建などの新しい形成治療法が選択できるようになりました。他にICU、透析室の完備を背景に外傷、急性冠不全、脳出血などへの緊急手術や患者様の要求に応じた日帰り手術にも万全を期して取り組んでいます。一方、安全な麻酔管理として高度な呼吸・循環モニターの装備はもちろんとして、ほかにBISという麻酔深度計（脳波計）を導入して患者様への安全で確実な全身麻酔の保障を行っています。また、術後疼痛管理には、麻薬の硬膜外投与や持続性静脈内投与で対応し、最近ではエコーを使った末梢神経持続ブロックで良い除痛効果を得ています。

〔ペインクリニック〕ペインクリニック外来では、種々の痛みに対して神経ブロック療法を中心に考えていますが痛みが局的にあり出血傾向がないことが適応になります。補助療法として向精神薬・麻薬・漢方薬などの内服を併用しています。最近、抗凝固療法をされている方が多く神経ブロック不適のため内服療法をすることが多くなっています。そのため帯状疱疹後神経痛に対する疼痛緩和療法として麻薬であるリン酸



医師
古庄 千代
麻酔一般
日本麻酔科学会指導医・専門医



医師
宮崎 直樹
麻酔一般
日本麻酔科学会専門医



医師
松川 豪策
麻酔一般



医師
小林 加織
麻酔一般

コデインや新薬リリカによる内服療法による治療実績が集積されています。また、本院はがん診療連携拠点病院です。本科も22年4月より痛みの相談の他に癌性疼痛緩和外来を月曜日・上妻、火曜日・榮、水曜日・上妻、木曜日・榮で開いています。

〔ICU〕ICUには術後および救命救急センター外来からの重症患者を管理する6台のベッドがあります。管理は、疾病当該科から主治医を選び、急性期を乗り切るまで補助循環、血液浄化、人工呼吸などを循環器科、腎臓内科、麻酔科が補助するかたちで運営されています。

診療実績

平成22年度の総手術症例は4,579例で前年度より43例（0.9%）増加しました。また緊急手術は、667例で前年度より4例（0.6%）増加しました。手術が増加した科として外科、心外、産婦人科、泌尿器科、眼科、歯科、血液内科（骨髄採取）、腎臓内科などが挙げられます。また、平成22年度の麻酔科管理および全身麻酔件数は、それぞれ3,427例（前年度より3.2%減）2,496例（4.7%減）と減少しています。これは、耳鼻科の閉鎖がひびいていると思われる。（23年3月より再開）ペインクリニック外来は、取り扱っている疾患は帯状疱疹（疱疹後神経痛）と腰下肢痛が多くなっています。

研究実績

多数の学会発表はもちろんのこと、平成22年度の論文掲載として、雑誌「麻酔」に2編、日本麻酔科学会誌に6編、国立病院機構熊本医療センター医学雑誌に1編掲載されました。

ご案内

上妻先生の外来日に、眼瞼痙攣、顔面痙攣に対するボツリヌストキシン療法を行っています。

第17回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催のご案内

医療従事者であれば、どなたでもご参加できます。皆様のお越しをお待ちしております。

平成24年1月14日（土）

開会の辞

池井 聰（国立病院機構熊本医療センター院長）

8：50～9：00

一般演題Ⅰ「内科系1」

座長：榮 達智（国立病院機構熊本医療センター血液内科医長）

9：00～10：10

酒谷 紀子（国立病院機構熊本医療センター看護師長）

I-1 肝炎後再生不良性貧血の一例

血液内科 古閑悠輝 樋口悠介 日高道弘 清川哲志 河野文夫
 消化器内科 田島知明 杉 和洋

I-2 フィラデルフィア染色体を持つ急性骨髄性白血病の一例

血液内科 岩田康伸 日高道弘 樋口悠介 清川哲志 河野文夫

I-3 気管チューブ逸脱症例の検討 ―カフ圧計および圧管理の問題点の検討―

呼吸器内科 今村文哉 山根宏美 岡本知久 柏原光介
 医療安全管理室 徳永雄規

I-4 インフルエンザA感染を契機に急性副腎不全を発症した副腎結核の1例

呼吸器内科 山根宏美 柏原光介 岡本知久 今村文哉
 江南病院 呼吸器内科 吉岡優一

I-5 ギラン・バレー症候群の3例

神経内科 小阪崇幸 中西俊人 幸崎弥之助 俵 哲 田北智裕

I-6 当院の妊娠糖尿病入院患者60例の患者背景と治療法の解析及び尿中5-HIAA濃度の検討

糖尿病・内分泌内科 嶋田さやか 島川明子 児玉章子 豊永哲至 東輝一朗
 救急科 高橋 毅

I-7 妊娠糖尿病診断基準改定前後の患者数・栄養指導数・インスリン治療件数等の比較検討

栄養管理室 立石容子 大野仁美 近藤高弘 石崎明子 椿 裕子
 糖尿病・内分泌内科 嶋田さやか 児玉章子 豊永哲至 東輝一朗
 救急科 高橋 毅

一般演題Ⅱ「内科系2」

座長：中田 成紀（国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長）

10：15～11：25

山口ちはる（国立病院機構熊本医療センター看護師長）

Ⅱ-1 ミルク・アルカリ症候群による急性腎不全の一例

腎臓内科 中川輝政 山本結美 梶原健吾 富田正郎

II-2 B型肝炎ウイルスgenotype A型肝炎による急性肝炎の1例

消化器内科 石田俊史 田島知明 吉成元宏 尾上公浩 小林起秋 村尾哲哉 中田成紀
前田和弘 杉 和洋

II-3 当科で経験した、重症型アルコール性肝炎4症例の検討

消化器内科 高山 葵 尾上公浩 田島知明 吉成元宏 小林起秋 村尾哲哉 中田成紀
前田和弘 杉 和洋

II-4 適切なバイスタンダーCPRによって蘇生した1例

循環器内科 内原智幸 本多 剛 堀真美子 平田快紘 古賀英信 宮尾雄治 藤本和輝

II-5 当科における今年度のマイコプラズマ感染症症例の検討

小児科 井手瑤子 緒方美佳 森永信吾 高木一孝

II-6 二重膜濾過血漿交換が有効だった多臓器障害合併Stevens-Johnson症候群の1例

皮膚科 山田早織 牧野公治 梶原一亨 永元英子 吉津希美
救急科 原田正公

II-7 盲腸捻転症の画像所見について

放射線科 西東洋一 荒木裕至 吉田絵里 徳永郁香 富高悦司 浅尾千秋 吉松俊治

一般演題Ⅲ 「コメディカル・事務」 座長：今村 文哉（国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長）

11：30～12：30

森田 伸二（国立病院機構熊本医療センター放射線科副技師長）

III-1 SPACE法における頸動脈プラーク評価

放射線科 市川和幸 阿萬貴史 阿南恵吾 今西美嘉 森田伸二 山本静成
熊本大学大学院生命科学研究部 肥合康弘
熊本大学大学院保健教育部 伊豆野勇太

III-2 院内警備担当者（警察OB）の配置について

事務部管理課 増田賢武 高倉 進 横尾大輔
看護部 松島篤子 松本和佳子

III-3 言語聴覚療法部門の紹介、当院での役割と課題

リハビリテーション科 西山真倫子 西崎武文

III-4 人工呼吸療法における加温加湿器の性能の検証

麻酔科 臨床工学技士 北川 哉 田代博崇 川内 直 新木信裕 竹本勇介 佐藤朋哉 江崎公明

III-5 中国渡航者より検出した多剤耐性Acinetobacterの1症例

臨床検査科 川上洋子 香月耕多 下川里美 林 秀幸 橋本龍之 鶴田敏久
救急科 櫻井聖大

III-6 MRSA肺炎におけるTDMの評価

薬剤科 橋本崇広 川上恵子 花田聖典 永野真久 平池美香子 平木洋一 真鍋健一

昼 食 (12：30～13：30)

一般演題Ⅳ 「看護・教育」

座長：中村 敦（国立病院機構熊本医療センター経営企画室長）

13：30～14：20

竹下 弘子（国立病院機構熊本医療センター附属看護学校教員）

Ⅳ－1 新人看護師のストレス反応尺度の経時的変化とその要因についての検討

看護部 森田 恵 猿渡恵美子

Ⅳ－2 腸管切除術後のガム咀嚼による苦痛の緩和～絶飲食に伴うストレスの軽減～

看護部 6 東病棟 西村昌修 渡邊みずき 黒木栄美 大塚美里 西山幸子 石坂育子

Ⅳ－3 脳梗塞患者のせん妄発症状況と影響因子

看護部救命救急センター 西野一史 戸高 彩 原田 藍 木原真理子 北川貴章 有馬京子

Ⅳ－4 手術中における器械出し看護師血液・体液飛散についての調査～アイガードを用いて～

看護部手術室 池本莉沙 徳永雅子 松本尚子 清田喜代美

Ⅳ－5 看護学生の早出・遅出実習における体験の分析と実習教育の考察

附属看護学校 荒木美佐子 石井美香子 岸田佐智子

一般演題Ⅴ 「外科系」

座長：清原 英雄（竜山内科リハビリテーション病院 院長補佐）

14：25～15：35

清田喜代美（国立病院機構熊本医療センター看護師長）

Ⅴ－1 麻薬中毒患者の感染性心内膜炎症例

心臓血管外科 田中睦郎 岡本 実

Ⅴ－2 巨大後腹膜神経鞘腫の1例

外科 古閑悠輝 富樫陽彦 池井 聰 片渕 茂 芳賀克夫 宮成信友 多森靖洋
松本克孝 尾崎宣之 村田飛鳥 泉 大輔 富口麻衣

Ⅴ－3 腹部刺傷により下大静脈を損傷し救命し得た一例

外科 八木泰佑 尾崎宣之 宮成信友 村田飛鳥 富樫陽彦 松本克孝 多森靖洋
大堂雅晴 芳賀克夫 片渕 茂 池井 聰

心臓血管外科 岡本 実

整形外科 橋本伸朗

Ⅴ－4 固有指動脈に発生した動脈瘤の一例

形成外科 中西いずみ 万江由希子 大島秀男

Ⅴ－5 うっ血乳頭より乳癌の診断に至った1例

眼科 筒井順一郎 青木浩則 平島みほ

神経内科 小阪崇幸

外科 富口麻衣

Ⅴ－6 内頸動脈狭窄症に対するCEA手術の麻酔管理3症例の経験

麻酔科 伊東山剛 江崎公明

V-7 国立病院機構熊本医療センター摂食・嚥下チームの取り組み

歯科口腔外科 山下真実 中島 健 片岡奈々美 河野通直 高尾真暢
 看護部 草原麻紀 斎木直美 小林沙祐理 落合ひろみ 池田佳奈
 リハビリテーション科 西崎武文 西山真倫子
 栄養管理室 椿 裕子 大野仁美

一般演題VI「救急医療・その他」 座長：島田 達也（しまだ内科クリニック 院長）

15：40～16：50

川内サユリ（国立病院機構熊本医療センター看護師長）

VI-1 Aeromonas hydrophilaによる壊死性筋膜炎の2例

救急科 北田真己 江良 正 狩野亘平 山田 周 櫻井聖大 原田正公 高橋 毅

VI-2 脳内出血と急性期血圧上昇反応—多変量解析による要因分析—

脳神経外科 天達俊博 大塚忠弘 吉里公夫 佐藤恭一

VI-3 子宮内膜組織診にて診断し得た悪性リンパ腫の1例

産婦人科 福田真世 永井隆司 高木みか 西村 弘 三森寛幸

血液内科 井上佳子

病理診断科 村山寿彦

VI-4 転移性骨腫瘍に対するストロンチウム89の使用経験

泌尿器科 矢野大輔 鍬田知子 岩下 仁 瀬下博志 陣内良映 土岐直隆 菊川浩明

VI-5 解離性障害とアスペルガー症候群の関連性について

精神科 佐々木博之 山下建昭 渡邊健次郎

VI-6 骨折を伴わない足関節脱臼の1例

整形外科 田上裕教 橋本伸朗 福元哲也 前田 智 中馬東彦 松下任彦 野村一俊

VI-7 無痛性甲状腺炎後にバセドウ病を発症した一症例

田尻クリニック 深田修司 中武伸元 田尻淳一

国立病院機構熊本医療センター 島川明子 宮川雄介 東輝一朗

総評・閉会の辞

河野 文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）

16：50～17：00

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

国際医療協力 “ウイルス肝炎対策セミナー”終了

本院では昭和63年よりJICAの依頼を受けて、発展途上国を対象に集団研修コース、血液由来感染症“**AIDS、ATL、ウイルス肝炎**”を開始しました。平成10年より“**ウイルス肝炎対策セミナー**”を独立させ、昨年まで23年間に亘り世界各国の研修生を受け入れてきました。平成元年に発見されたC型肝炎は臨床像が解明され、新規薬剤の開発とともに治療が標準化され治療効果が向上してきています。B型肝炎はウイルス遺伝子亜型の世界的な分布とその臨床像の差異が明らかになり、一方、免疫抑制治療に伴う既往感染状態からの再活性化が問題になってきています。肝炎治療は慢性肝炎から肝硬変、さらには肝がんの抑止を大局的に見据えたものとなっています。ウイルス学と治療の急速な進歩とともに世界の肝炎情勢がめまぐるしく変貌してきている平成15年より杉がコースリーダーを引き継ぎました。

平成20年に起こったリーマンショックに端を発した世界同時不況や平成21年の政権交代により日本を取り巻く情勢が急速に変貌を遂げています。平成22年の行政刷新会議（事業仕分け）による公益法人事業縮小の影響により、更新が予定されていた“**ウイルス肝炎対**



歓迎会の様子



セミナーの参加者と

策セミナー”はJICAの事業から撤退する危機に瀕しました。そのため同年6月、翌23年1月に外務省に赴き、“**ウイルス肝炎対策セミナー**”の重要性をプレゼンテーションしてきました。その結果、平成23年より名称を新たに“**ウイルス肝炎対策セミナー：疫学、予防及び治療**”と名称を変更して再スタートすることになりました。

第1回研修は平成23年11月7日より11月25日にかけて開催され、モンゴル、中華人民共和国、ミャンマー、インドネシア、セネガル、フィジーより、計6カ国6名の研修員が参加しました。一度は無くなりかけた研修コースです。再スタートするに当たり気持ちを新たに、コースリーダーとして時間の許す限り研修生と接することを心がけました。

これまで毎年プログラム内容の直しを図り、できるだけアップデートな内容を盛り込むとともに日本全国より選りすぐりの講師陣をラインアップしてきました。とくに新しくなった消化器病センターを始め、中央検査センター、画像診断センター、透析室、病棟と施設見学および実際の検査・治療の時間を増やしました。内容の充実により好評を博しています。前回までの研修にご協力いただいた講師および見学研修施設は今回もご協力いただき、研修員より高い評価を受けています。心より感謝申し上げます。

(消化器内科医長 杉 和洋)

ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて

11月30日から12月2日の3日間、南カリフォルニア大学外科学准教授、ジェフリー・ヘーゲン先生をお迎えし、研修会が行われました。研修医1年目の私たちの英語での症例発表、ヘーゲン先生の講演、消化管吻合の実習と大変充実した研修会でした。私は「誤嚥性肺炎を繰り返す高齢女性」と題し、嘔吐と誤嚥性肺炎を繰り返しており、精査の結果Morgagni孔ヘルニアの存在が判明し、当院にて縫宿術を施行した症例を発表させていただきました。発表後にはヘーゲン先生より、アメリカでの同様の症例に対する手術法の違いや利点などについて、また発表の仕方についてもコメントを頂き、とても貴重な経験をさせていただきました。今回の研修の中で消化管吻合の手技の違い、南カリフォルニア大学での緊急手術症例に対する医療体制など、日本の医療との違いにたくさん触れることができ、非常に驚嘆しました。日進月歩の医療の中で、globalな

視点を持ってこれからの毎日の診療に取り組んでいきたいと思えます。(1年次研修医 今村 友彦)



研修医と共に記念撮影

研修医レポート

臨床研修医

1年次 **山田 崇裕**



こんにちは。研修医1年目の山田崇裕と申します。聖マリアンナ医科大学を卒業後し、4月から熊本医療センターにて研修をさせて頂いております。研修医生活が始まり早8ヶ月が経ちました。私は内科系からのローテーションから始まり、これまで神経内科・麻酔科・消化器内科を回り、現在は救急部でお世話になっております。

神経内科では脳梗塞・TIA・髄膜炎といった症例を経験しました。一口に神経診察といっても様々な検査法があり、神経所見をとることの大切さを学ばせてい

ただきました。また、脳梗塞の診断・治療についても御指導頂き、大変勉強になった2ヶ月間でした。

麻酔科では術中の麻酔管理方法や人工呼吸器の取り扱い方をご指導頂きました。また、気管挿管やルート確保・胃管挿入等の手技も多く行う事が出来ました。他に術前にすべき検査や聴取すべき事項についても御指導頂きました。

消化器内科では超音波検査を日常業務としてさせて頂き、また腹水が貯留してしまっただ患者さんへの腹腔穿刺も数多く経験させて頂きました。症例も急性膵炎・胆管炎・アルコール性肝硬変・虚血性腸炎等様々な症例を経験し、ただその病気を診るだけでなく全身状態を診ることの大切さを学ばせて頂きました。

そして、現在は救命救急部をローテーションさせて頂いております。救急外来では採血・ルート確保を多くさせて頂き、また創部縫合も多くさせて頂きました。入院患者さんも重症の方が多く、全身管理を行う難しさを学ばせて頂きました。

このように現在、充実した研修生活を送らせて頂いております。まだまだ勉強不足の事が多くスタッフの方にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、多くの手技・知識を身につけ精進していきたいと思っております。

今後とも御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

臨床研修医

1年次 **石田 俊史**



こんにちは。研修医1年目の石田俊史と申します。私は山口県下関市出身で、熊本大学を卒業し、4月から熊本医療センターで初期研修をさせて頂いておりますが、早いものでもう12月、今年も残すところあと僅かとなりました。4月からの、この1年を振り返りますと、本当にあっという間だったように感じます。

私は循環器内科、救急部、腎臓内科、外科の順でローテーションさせて頂きました。

循環器内科では、毎朝心臓カテーテル検査に入り、スワングアンツカテーテル検査を多く経験させて頂き、その時の経験は、その後の研修で大腿静脈からのCVカテーテル挿入に大変役に立っています。

救急部では、熊本医療センターの特色である、救急

車の多さを身をもって実感する事になりました。毎日救急車で搬送されてくる多くの救急症例のなかで、採血や静脈ルート確保、縫合などの基本的な手技から、胸腔ドレーン挿入やルンバル、CVカテーテル挿入や気管挿管など今後身につけなければならない手技を経験する事ができました。

腎臓内科では、毎朝のシャント穿刺から1日が始まり、シャント作成手術やPTAなどの血管内治療、腎生検、エコーガイド下での大腿静脈、内頸静脈へのUKカテーテル挿入を数多く経験し、急性期から慢性期の腎不全や透析中の患者さんの管理を学ばせて頂きました。

外科では、日付を越えるような手術や、緊急手術など実際に多くの手術に助手として参加させて頂き、開腹や閉腹のための真皮縫合、糸結びや鉤引きなど数多く経験させて頂きました。

毎日が反省の日々ですが、私がここまでぎりぎり笑顔で乗り越えてこれたのは、周りの皆さんのおかげだと大変深く感じています。これからご迷惑をおかけする事が数多くあるとは思いますが、日々成長していきたいと思っておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願ひいたします。

第4回 肝疾患地域連携を深める会

この度、第4回肝疾患地域連携を深める会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- 【一般講演】 座長：七城木村クリニック 院長 木村 圭志 先生
- 演題Ⅰ 「国立病院機構熊本医療センターにおける肝臓病に関する啓発活動」
国立病院機構熊本医療センター病棟看護師長 田中 幸子
- 演題Ⅱ 「肝炎・肝がん地域連携の現状と課題」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋
- 【特別講演】 座長：国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋
- 「肝疾患診療連携の現状と課題－良質な肝炎・肝がん診療を提供するための工夫－」
大分大学医学部付属病院 肝疾患相談センター 講師 清家 正隆 先生

日 時：平成24年1月27日（金）19：00～20：45

場 所：ホテルニューオータニ熊本 2F『おしどり』

〒860-0047 熊本市春日1-13-1 TEL 096-326-1111

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

研修のご案内

第156回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成24年1月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「レナリドマイド治療」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

原田奈穂子

4. ミニレクチャー「慢性腎臓疾患について」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長

富田 正郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第125回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成24年1月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「国立病院機構熊本医療センターにおける糖尿病足病変の取り組み」

国立病院機構熊本医療センター内科外来看護師

矢野美弥子

2. 「出産後徐々に体重減少を認め、約15年後にバセドウ病を合併した1型糖尿病」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

野尻奈央、嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第31回 熊本がんフォーラム（無料）

日時▶平成24年1月24日(火)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

司会：社団法人 熊本市医師会 熊本地域医療センター内科部長

千場 博 先生

「大きく変わる進行非小細胞肺癌の治療」

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

柏原 光介

皆様のご来聴をお待ちしております。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫 TEL:096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第105回 総合症例検討会(CPC)

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成24年1月25日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『神経筋疾患疑い患者の病態の急変』

(70歳代 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長

原田 正公

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「神経筋疾患疑いがあり、筋力低下を認めていた。転倒、骨折と肺炎のために当院へ入院となった。」

入院中に低Na血症の補正を行っていた。病態が急激に増悪した」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第18回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成24年1月28日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本市医師会

西村 誠一郎 先生

演題：「脳卒中の治療の考え方」

1. 内科的考え方
2. 外科的考え方

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長

田北 智裕

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長

大塚 忠弘

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2012年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室	その他
4日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
5日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
6日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
7日(土)		15:00~19:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	
10日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
11日(水)	18:00~19:30 第72回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
13日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
14日(土)	8:50~17:00 第17回 国立病院機構熊本医療センター医学会 19:00~20:30 第156回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
16日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
18日(水)	平成23年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第1日目)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(木)	平成23年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第2日目)	19:00~20:45 第125回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
20日(金)	平成23年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第3日目)	15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がん」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
21日(土)	13:30~16:00 看護卒後研修 「がん患者のQOLを考えた看護 ーリンパマッサージ、エンゼルメイクについてー」 QOL総合研究所株式会社プロジェクトマネージャー 高柳 茂		
23日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
24日(火)	19:00~20:30 第31回 熊本がんフォーラム 「大きく変わる進行非小細胞肺癌の治療」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
25日(水)	19:00~20:30 第105回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「神経筋疾患疑い患者の病態の急変」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
26日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
27日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
28日(土)	15:00~17:30 第18回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本市医師会 西村誠一郎 「脳卒中治療の考え方」 1. 内科的考え方 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕 2. 外科的考え方 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘		
30日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
31日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)